

城かべ ほんねり

- 日本の風土で生まれ、親しまれた「炊きのりしっくい」。
多くの手間暇をかける伝統工法は、職人の勘と経験が物を言います。
城かべほんねりは、そんな炊きのりしっくいの良さを
あますところなく再現、使いやすいパックにしました。
- のりは良質の黒葉銀杏草の炊きのり。
 - 練り状なので、現場での面倒な作業は一切不要。
 - 油は添加済みで、そのまま外部に使用できます。
 - 便利な容器兼用ケース入り。



商品概要

①品名	城かべほんねり
②性状	白色ペースト状
③主原料	消石灰、貝灰、海藻、植物繊維、植物油、その他
④荷姿	20kgポリ袋ケース1袋詰
⑤用途	壁上塗り、
⑥用法	混練不要 コテ塗り
⑦塗面積	10㎡(3坪)/t2.0mm

城かべ ぼんねり

施工要領

1. 混練

- ① ダンボールケースをそのまま容器として利用できます。ケースの縁に袋を掛け、ハンドミキサーを差し込んで練り戻して下さい。多く使用される場合は容器に移して練ると良いでしょう。
- ② 油はあらかじめ添加していますが、追加する場合は「城かべ油」を添加して、よく練ります。
- ③ 固いときは少量の水を加えます。

2. 下地処理

- ① 左官下地は完全に養生、乾燥させて、ボード類は目地処理をしておきます。
- ② 表面をきれいに清掃して、シーラー引きまたは水打ちをして下さい。
- ③ 完全な仕上にするには、砂しっくい(城かべ屋根しっくい、城かべ中塗用)で下塗りをしており、生乾きのうちに追いかけて仕上げて下さい。

3. 塗り付け

- ① はじめは下地に食い込むように全面にしごき塗りをして、2回目で厚みを揃えます。
- ② 表面が半乾きの状態で金ゴテで押さえしていきます。コテ押さえの回数で壁の硬度と耐久性が決まりますので、少なくとも2~3回は丁寧に押さえてください。
- ③ 仕上がり後は、適当な通風をして徐々に乾燥させます。

※ 磨き仕上げ

- ① 金ゴテ押えの後、プラスチックゴテでまんべんなくこすります。
- ② 本磨きにするには、濃い目の炊きのりで石灰、貝灰を練ってノロを作り、うすく伸ばしてプラスチックゴテで磨きます。

試験項目(試験方法)

①安定性試験 (JIS-A-6902)	②表面硬度 (JIS-A-6904,6908)	③接着強度 (JIS-A-6909)	④耐候性試験 (JIS-A-5400 ウェザーメーター)	⑤凍結融解試験 (-30℃~80℃ 10サイクル)
合格	5.5	3.0kgf/cm ²	異常無し	異常無し

施工上の注意

- ① 長期保存しても品質には影響ありませんが、目安として製造後6ヵ月経ったものは試し塗りし、保水性が落ちている場合は糊剤(粉末銀杏草)を添加してください。
- ② 土中塗や付着しにくい下地には必ずシーラー引きを施してください。
- ③ コテ押さえはなるべく金ゴテを使用し、プラスチックゴテは磨きだけに使用してください。
- ④ 冬期は白華が出やすいのでなるべく保温をし、5℃以下の場合施工を避けてください。

製造



田川産業株式会社

〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田1924番地

TEL 0947-44-2240

FAX 0947-44-8484